

野田物語

童謡作曲家・山中直治⑥

直治の童謡集刊行を

支えた島田芳文

山中直治が、いつから作曲

活動を始めたかは定かではありませんが、現在確認できる最も古い作品「旅」に記載された日付が大正14(1925)年10月7日とあることから、千葉師範学校(現在の千葉大学)を卒業し、野田尋常高等小学校(現在の中央小学校)に着任した19歳の時にはすでに曲を作っていたと考えられます。

以降、作品は増えていきますが、作曲コンクールなどにも積極的に投稿していたようで、昭和4(1929)年3月、東京日日新聞(現在の毎日新聞)に応募した「鐵道唱歌」や、同年6月に文部省や東京日日新聞社などが募集した「四恩

の歌」が見事に入選。

また、同5(1930)年には「房州小唄」(作詞＝市原三郎)がコロンビアからレコード化され、以来、30曲以上が発売されたり、同6(1931)年には「新作民謡上総八幡小唄」(作詞＝福島貞夫)、「新作民謡武蔵小唄」(作詞＝石原江風)、「総武電車車窓行進曲」などの印刷された楽譜も刊行されています。

山中直治が教員生活を続けながら、作曲家として活躍していく背景には、松山隆校長の支援はもちろんでしたが、作詞家の島田芳文(1898～1973)の力強い大きなものがありました。



山中が作曲した現存する最古楽譜(大正14年)



直治の活動を支援した島田芳文

島田は、福岡県豊前市に生まれ、若山牧水から短歌を学び、その後、野口雨情に師事します。民謡、歌謡、童謡の作詞もこなし、昭和6(1931)年に作曲家の古賀政男と組んだ「丘を越えて」が大ヒットします。山中と島田がどのように出会ったのかは資料がないので推測するしかありませんが、昭和8(1933)年に山田耕筈が編集した「世界音楽全集第22巻」(春秋社)に「世界の子供」(作詞＝北原白秋)が収録されていることから、山田の弟子で北原とも交流があり、音楽界にも人脈を持っていた乗松隆一が紹介したのかもしれないかもしれません。

昭和8年に刊行された「山中直治童謡曲集」の序文で、直治は同曲集が発行できたことに関して、島田芳文の名をあげて感謝の意を表しています。

また、島田は50曲を収録した同曲集に、「お祭り」「竹馬」「だんだん畑」など約半分の24曲の作品の作詞も手がけています。

※文中敬称略(2月1日号へつづく)

【参考資料】「よみがえる山中直治童謡の世界」野田市郷土博物館

12月の休日当番医

休日当番医での診療時間

外科・産婦人科＝9時～22時(ただし16時～19時は除く)

内科＝9時～16時(19時～22時は急病センターで行います)

日(曜日)	外科	内科	産婦人科
6日(日)	門倉医院(☎7124-5311)	野田南部診療所(☎7121-0171)	小張総合病院(☎7124-6666)
13日(日)	山崎外科内科(☎7122-2359)	新村医院(☎7138-2103)	アイレディースクリニック(☎7137-7661)
20日(日)	西村クリニック(☎7123-0050)	丹保医院(☎7129-3557)	遠藤産婦人科医院(☎7124-7860)
23日(水)	しばやま整形外科(☎7120-5355)	小澤医院(☎7122-3980)	杉崎クリニック(☎7125-1070)
27日(日)	小張総合病院(☎7124-6666)	豊泉医院(☎7129-3813)	川間太田産婦人科医院(☎7127-1135)
29日(火)	須藤整形外科(☎7122-1221)	野田病院(☎7127-3200)	杉崎クリニック(☎7125-1070)
30日(水)	キッコマン総合病院(☎7123-5911)	あらい内科クリニック(☎7122-5723)	川間太田産婦人科医院(☎7127-1135)
31日(木)	梅郷整形外科クリニック(☎7125-2011)	山縣医院(☎7125-3741)	小張総合病院(☎7124-6666)

※休日当番医は変更することもあります。受診の際にはテレホンガイド(☎7124-7272:コード6101)、または野田市ホームページ(<http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/04-01-01.html>)で確認してください。

急病センター

☎7125-1188

▼内科(小児科)＝19時～22時(毎日)

▼歯科診療＝9時～12時(休日)

▼今年ももう12月。今号の4・5面で1年を振り返ると、いくつか印象に残った事業があります▼特に、安全・安心な農産物作りが始まり、減農薬で昔ながらの米作りが体験できる「水田型市民農園」の開設や、廃棄物を再利用して、減化学肥料での農業を目指す「もみ殻牛ふん混合堆肥」の散布、さらに農薬に替える「玄米黒酢」をまく水稲栽培なども進みました▼我が家も食の安全に注意するようになったので、正月のおせちの材料は、地元の新鮮な農産物が並ぶ「ゆめあぐり野田」でそろえてみようと思います(あ)

編集後記

市の木



けやき

市の花



つつじ

市の鳥



ひばり